

Q 市長の2期目の公約 について

はせがわ きよし
長谷川 清 議員



A 鶴ヶ島市の魅力を向上させます

問 齊藤市長の1期目においての選挙公約はなく、市長就任後において、交通安全を鶴ヶ島市の最優先課題に位置付け、道路交差点において薄くなって消えかかっている停止線前の「止まれ」の文字の塗り直しに成果が得られたとされてきました。

しかし、市長2期目の立候補に際しては、「食の駅構想」、「Nゲージのテーマパーク構想」、

「若葉駅東口の再開発構想」の三つの構想を公約として掲げられたので、その内容について説明を求めます。

答 「つるの駅構想」は、圏央鶴ヶ島IC周辺に、食やにぎわいをテーマにした新しい交流の場をつくりたいと考えています。

「鶴ヶ島駅周辺におけるまちづくり構想」は、株式会社関水金属の工場を核として、官民連



市役所庁舎

携による魅力あるエリアを創出するもので、多数の鉄道ファンが訪れることが予想される鶴ヶ島駅から(株)関水金属までの地域の環境等を整備する。

「若葉駅東口周辺地域の構想」は、ワカバウォーク周辺の容積率を高めて高度利用が出来るようにすることで、民間企業等が参入しやすいような環境を整え、市有地を含めた大規模な展開を図る。

Q コロナ禍での人材確保 について

まつお たかひこ
松尾 孝彦 議員



A 県や関係機関と連携し、介護人材 確保に寄与する

問 コロナの影響による介護職員の離職・休職について。

答 全国的には、サービスの利用控え等で、事業所の運営が厳しくなり、事業の休止や廃止を余儀なくされた事業所もあるようだが、市内では現時点でそのような事態には至っていない。また、コロナ禍の影響による介護従事者の離職、休職の相談や報告は受けていない。

問 在宅介護の現状について。

答 通所リハビリテーション及び地域密着型通所介護の2つのサービスが、前年度を下回る利用実績となっている。また、ショートステイサービスも同様に利用者数が減少しているが、利

用延べ日数は前年度に比べて増加しているため、給付費も増加した。

問 今後の具体策について。

答 令和3年の介護報酬改定では介護人材の確保、介護現場の革新を喫緊かつ重要な課題として位置づけ、手当関係に係る処遇改善加算等の見直しを行った。また、県でも介護の仕事の魅力やPRするためのイメージアップ事業や介護職への定着を図るための資格取得支援事業など、人材確保、定着に向けた各種事業を展開しており、市でも、継続して県に協力している。

